

今を輝く人に聞く

8

まちひと ZOOM!!

東日本大震災から6年。震災当時、避難所となった市営体育館でボランティアをして以来、復興支援を続けているのが、筈掛昇さんです。

現在は1人でやっているボランティア。活動内容は、「南三陸町の5つの保育所と幼稚園を、毎月のように訪れています。紙芝居をしたり、季節の果物を持って行ったり。5月には、鯉のぼりとサッカーボールを持って行きました。6月にはさくらんぼを届けます」と筈掛さん。子ども達の様子を話す姿は終始笑顔です。

しかし、震災後間もない現地の様子を語る時、筈掛さんの表情は曇ります。「夜のうちに現地向かいました。道も悪く、すれ違う車は一台もない。夜が明けて見えた町の姿には愕然としました。がれきの山ですよ」。たどり着いたのは仮設の幼稚園になっていたお寺の本堂でした。食料が不足していたため、数日のうちに現地に届けたそうです。

その後も筈掛さんの支援は続きます。米沢に戻り、



南三陸町の復興ボランティアを行う

おいかけ のぼる

筈掛 昇 さん(通町3丁目)

[Profile] 定年後、語りのボランティアを始め「米沢とんと昔の会」にも所属。78歳の現在、8年前から始めた琵琶を弾きながら語りを行う。

子ども達に笑顔を届け、
少しでも復興の力に



学校や地域に支援物資の協力依頼。筈掛さんのもとに玩具や本など、22箱もの物資が集まりました。

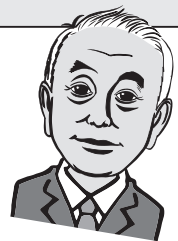
筈掛さんが支援を続ける原動力は何かと問うと、「子ども達の笑顔があるからです。米沢の豊富な果物で子ども達が喜んでくれます。私は少しでも復興の役に立ちたいんです」とのこと。震災以来、南三陸町をずっと見てきた筈掛さんにとって、復興はまだこれから。今後も、筈掛さんは子ども達に笑顔を届けます。

伊達政宗公は、永禄10年(1567)当時伊達氏の居城の米沢で生まれました。17歳で家督を譲られた政宗公は、戦国武将として躍進し、「若き奥州の覇者」の称号を得ます。そして25歳の時、豊臣秀吉の命により岩出山城(現在の宮城県大崎市)へ国替えとなり、その後仙台に青葉城を築城し今日の仙台市の基礎を創りました。

先日、生誕450年を記念し、仙台市で伊達氏ゆかりの方々との「トークセッション」が催され、私も生誕地の市長として招かれました。政宗公が拡張整備したと伝わる「館山城跡」が国史跡に指定されたこと、家臣の支倉常長公がスペインに渡った縁で「支倉常長日西文化協会」が設立されたこと、よねざわ市民ミュージカル伝国座によるオリジナルミュージカル「梵天丸」が公演されたこと、今の米沢市に伊達氏の面影はあまりないけれども、生誕の地として精神文化を持ち続けていることを話してきました。

米沢市長 中川 勝

おしょうしな
よねざわ



今月のはなし

米沢生まれの政宗公

～生誕450年に想う～